

令和5年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■調査概要

助成団体	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
事業細目名	タレント発掘・一貫指導育成
事業名	タレント発掘事業
助成金額	143,776,000 円

■調査内容

令和5年度将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成を活用し実施される、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会の「タレント発掘事業」について実施状況調査を行いました。

本事業は、令和5年4月1日から令和6年3月31日の期間、若年層から日本代表までの一貫指導を実施し、世界と戦える人材を育てる活動に対して支援を行うものです。

今回の合宿に参加していた大学生の選手は通常15人制を主としており、所属先での活動がオフとなる期間等を利用して7人制の本プログラムに参加しているとのこと。人数の違いによって必要な体力や技術が異なる中、合宿初日は屋内トレーニングルームでウェイトトレーニング、屋外フィールドでは各選手がGPSを着用し、走力テストやコンタクトが無いボールを使ったゲームを行っており、選手の息遣いが聞こえるほどのハードな練習内容でした。

様々な大学から参加した選手は本合宿を楽しみにしているとのこと、選手同士が声を掛け合う等、活気のある雰囲気の中で行われていました。

また、熊谷にある合宿地には2021年にオープンした宿泊施設や代表レベルの選手らも所属するチームが本拠地としていることもあり、アカデミー世代が間近で代表レベルのプレーを見ることが出来る素晴らしい環境でした。本合宿に限らず、宿泊先からトレーニング場までの移動効率を良くするための配慮や、宿泊先の大広間を借りることで食事以外にもストレッチや選手・スタッフ間のコミュニケーションが行われる場にするなど、1室を多様な使い方が出来るように工夫を巡らしていました。

アカデミー世代から世界と戦えるための食事指導やチームビルディング等も継続して行われており、自己管理以外にも結束を強めながらも選手主体で動けるような指導を行っていました。さらには、本事業からオリンピックやワールドカップに出場する選手たちも出てきていることから、プログラムの認知度も向上しているとのことでした。

最後に、本事業に参加した選手のさらなる活躍及び本事業が競技力の向上と裾野の拡大に助成金が活用されることを期待しています。

（令和6年2月2日往査）

(写真) 合宿の様子

